■荷田在満　　国学者。田安宗武に「国歌八論」を呈して国歌論争になり致仕，後任に相手だった賀茂真淵を推挙した。
かだのありまろ
・・・・・・1706＝　　荷田春満の弟高惟の子として生まれたが，

_春満に男子がなかったためその養子となる。
徳川綱吉没・1709＝ 3歳：

西洋紀聞・・1715＝ **9歳：**
徳川吉宗将軍1716＝10歳：

近松没・・・1724**＝18歳：**

_家学を継ぎ，

荻生徂徠没・1728＝22歳：***中風で鈍化した養父春満の意を受けて江戸に赴き，幕府に仕える。**
_幕府内では有職故実の調査に専従し，そのかたわら家塾を開き，門人に和学を教授。

享保大飢饉・1732＝26歳：
・・・・・・1733**＝27歳：**この年，賀茂真淵が養父春満に入門。この頃から，**_将軍吉宗の二男田安宗武に仕え，「令三弁」「羽倉考」「本朝度制略考」などの有職故実書を著わす。**

悪鋳再開・・1736＝30歳：養父春満が死去。

・・・・・・1738＝32歳：桜町天皇の大嘗会に際して京都へ行き，「大嘗会便蒙」「大嘗祭儀式」「大嘗会儀式具釈」などを著わしたが，**_「大嘗会便蒙」の版行をめぐり京都で問題視され，**
・・・・・・1740＝34歳：**_幕府から閉門百日の処罰を受けた。この間の経緯については「大嘗会便蒙御答顛末」に詳しい弁明がある。**

公事方御定書1742**＝36歳：**さらに，***田安宗武に呈した「国歌八論」が宗武の意に添わず，宗武は「国歌八論余言」を著わしてこれを批評し，宗武から意見を求められた賀茂真淵も「国歌八論余言拾遺」を著わし，三者の間にいわゆる国歌論争をまき起こした。この中，在満の和歌論は「歌の物たる，六芸の類にあらざれば，もとより天下の政務に益なく，又日用常行にも助くる所なし」とする和歌の実用的な効用をはっきり否定するものであったために，和歌を天下の有用物と考える主宗武との意見の相違はその根本において埋めがたく，**
徳川吉宗隠居1745＝39歳：
菅原伝授＋・1746＝40歳：***ついに宗武の許を致仕することとなった。この致仕の原因には，さきの「大嘗会便蒙」に関する処罰事件もその一つとして考えられているが，致仕に際し，後任に賀茂真淵を推挙し，この真淵の任官が，真淵をしてその国学研究に大いなる発展を与える結果となったことはよく知られている。**
徳川吉宗没・1751**＝45歳：**_没した。
著書は他に「白猿物語」「在満歌文集」「除目名目略解」「地下人考」など多数。「白猿物語」「落合物語」「那嘉月物語」などの擬古文作品があることも注目される。

平凡社百科事典，